

認知症看護認定看護師教育と認知症者の看護

公益社団法人兵庫県看護協会

認知症看護認定看護師教育課程主任教員

久米 真代

認定看護師は2012年7月に、21の認定看護分野で総数10,875名と1万人を超え、そのうち、認知症看護認定看護師は、262名となった。認知症看護認定看護師教育課程は、2004年に日本老年看護学会が「認知症高齢者看護」（2007年に名称改正により、認知症看護となる）を申請し、2005年より日本看護協会看護研修学校で教育が開始された。2012年現在、日本看護協会看護研修学校、日本赤十字看護大学 看護実践・教育・研究フロンティアセンター、当協会の3か所で教育が行われている。

認知症看護認定看護師の教育内容は、認定看護師の役割である『実践』『指導』『相談』を看護の現場で果たすことができるように構築されている。教育目的は、①認知症患者とその家族の支援に関する最新の知識と技術を習得し、水準の高い看護実践ができる能力を育成する②培った専門的な知識と技術を活かし、看護職に対して指導・相談できる能力を育成する③あらゆる場において、認知症患者の生命、生活の質、尊厳を尊重したケアを同僚や多職種と協働して提供できる能力を育成することにある。

教育カリキュラムは、認定看護師として活動していくうえで必要な、「看護管理」「リーダースhip」「文献検索・文献講読」「対人関係」「臨床薬理学」などの共通科目、「認知症病態看護論」などを学ぶ専門基礎科目、「認知症看護倫理」「認知症患者とのコミュニケーション」「認知症看護援助方法論Ⅰ（アセスメント）」などの専門科目といった講義、事例展開などの演習、臨地実習から構成されている。これらのカリキュラムを6か月以上連続した(集中した)昼間、認定されている教育機関において615時間以上習得する必要がある。

当協会では2010年から教育課程を開講している。認定看護分野における経験年数が3年以上ある受講生は経験的に、認知症患者のアセスメントを行い、看護を実践する能力には長けている。しかし、時にその経験が邪魔をして現象や症状を正しく捉えることが困難となり、初期判断の誤りにつながる場合がある。そのため、教育課程においては、病態などの基礎的な知識の強化を行うと同時に、現象を正しく捉えるための演習を行っている。しかし、臨床実習に出ると、患者との向きあい方、捉え方に偏りが生じ、看護過程の展開に課題を抱えることもある。そこで、グループワークなどで受講生同士のアセスメントの視点を共有し、討議するなかで多角的な視点で分析する力を強化している。これまでの自分の枠にとらわれず、解決の糸口は必ずあると信じ考え続ける柔軟な思考力と、認知症患者を一人の生活者としての視点を持ち、看護を創造できるようになることが、質の高い看護実践を行うことにつながると考える。そして、意図的に介入した実践を評価し、評価したことをもとに実践を重ねることが認知症患者の生活の質向上に寄与できるといえる。

認定看護師は、自分だけが専門性の高い看護実践ができるのではなく、実践を言語化して伝えていくことで、部署全体、施設全体の誰もが質の高い、認知症患者の生命、生活の質、尊厳を尊重したケアができることに関わることも役割となる。そのために、教育課程の中では、“読む”“書く”“きく”“話す”“熟考する”ことを基盤に、看護職だけでなく多職種と協働し、認知症の初期判断とケアを実践できる人材を育成している。